



# グローバル人材育成教育学会

THE JAPAN ASSOCIATION FOR GLOBAL COMPETENCY EDUCATION

URL <https://www.j-agce.org>

発行人 アーナンダ クマーラ

2023年4月20日発行

ニューズレター No. 38

今回は、

- (1) 理事長挨拶
- (2) 理事会報告
- (3) 編集委員会報告
- (4) 年会費納入のお願い
- (5) 会員数・会費納入数報告

についてお知らせいたします。

## 【理事長挨拶】

### 長いトンネルの後で

大六野耕作

2023年度の新学期を迎える頃になって、これまで減少を続けてきたコロナウイルス感染者数が緩やかとはいえ上昇傾向を見せていることは気にかかるものの、このウイルスとどうにか折り合いをつけて日常を取り戻そうとしているというのが、わが国の現状かもしれません。5月8日からはコロナウイルスの感染症法上の分類を、様々な行動制限が伴う2類相当から季節性インフルエンザと同等の5類に変更することが政府から発表されています。

コロナウイルス感染症の影響を最も強く受けた国際交流も、渡航・入国制限が緩和された2022年度からは、outboundならびにinboundの学生交流が本格化する気配を見せています。筆者が所属する大学でも、スタンフォード大学、カリフォルニア大学のバークレー校、ロサンジェルス校、デービス校等のサマーセッション（夏学期）に参加した学生さんが42名と過去最多、協定校留学（inbound & outbound）も過去最多を記録しました。

そんな折に、海外の大学の動向をこの目で確かめ、海外の学長や総長とじっくりと議論する機会が3年ぶりに訪れました。まずはアメリカです。昨年8月末から9月にかけて実質5日間で6大学（東海岸のノースイースタン大学、ボストン大学、ペンシルベニア大学、テンプル大学、そして西海岸のカリフォルニア大学バークレー校、スタンフォード大学）を回りました。

アメリカの大学はコロナウイルス感染症のパンデミックを経験する中で、既に学士号を取得している社会人にAdvanced Degree（マスターやドクター）をオンラインで提供するプログラム開発を加速させています。また、何らかの理由でキャンパスでの授業が不可能になった場合（留学生が入国できない状況が生じた場合）にも備えて、オンラインの学士コースも積極的に導入しています。試しに、ハーバード大学、MIT、カリフォルニア大学バークレー校等が中心となって運営されてきたedXと呼ばれるMOOCsのサイトを訪れてみてください（<https://www.edx.org/>）。まず、edXを運営する組織がNPOから営利企業（株式会社）に姿を変え、イギリスやオーストラリアの大学も含め、学士・修士・博士の学位をオンラインで修得できるプログラムが山ほど提供されています。

しかも多くの場合、その費用は実際に留学して学位を取る場合の80%から40%と驚くほどのディスカウントです。もちろん、実留学で学位を取る場合のように、キャンパスで教員や学生と対面でコミュニケーションをとり議論を深め切磋琢磨というわけにはいきませんが、実留学の場合と全く同じ学位（オンライン学位と対面の学位を全く区

別していません)を取得できるとなれば、世界的に評価の高い大学の学位をオンラインで取得しようとする日本の高校生、大学生、社会人が増えても不思議ではありません。

アメリカの研究型大学はこれまでと同様、それぞれの専門分野の研究高度化とそれを支える学部レベルの基礎的な教育の充実に力を注いでいます。しかし、学部教育、大学院教育においても、VUCAといわれる絶え間ない変化と不確実性に満ちた世界の中で、自ら能動的に対応できる知性とスキルセットを専門分野や国境を超えて提供することにも注力しています。例えば、スタンフォード大学のd. schoolでは、世界中から(異なった文化・歴史的背景を持ち)専門分野も全く異なる大学教員が集まり、先行きが不透明でしかもグローバル化した現代世界で個人や社会が次の時代を切り拓くためには、どのような教育を行えばいいのかについて一から見直し、新たな教育プロトタイプ(Prototype)を開発するWorkshopが行われていました。

11月に3年ぶりに訪れたタイの大学の変貌には大きなショックを受けました。10年あまり前、学部長としてタイの主要大学(チュラロンコン大学、タマサート大学、チェンマイ大学等)と協定を結んだ頃のタイの大学では、「大学の国際化を進めるにはどうしたらいいのか教えてほしい。

English Trackを始めようとしてもなかなか…」という質問を受けることがしばしばでした。

しかし、今回、タマサート大学でお会いした副学長は40代前半(以前なら50代後半というのが普通)のイギリスの大学院のPh.D.取得者で、馬蹄形の会議室に入るやいなや(以前ならば、まずは応接室)、「貴学との提携は政治経済学部との協定と承知しています。この度は本学のどのような教育・研究プログラムにご興味が…」と立て板に水のビジネストークが始まったのです。これに呼応して、学部間協定を大学間協定にアップグレードしたいと提案すると、即座にOK。所要時

間は挨拶を含めても30分程度。即断・即決は、これまでのタイでは到底考えられなかったことです。

翌日に訪れたチュラロンコン大学では、バンデイト・ユーラポーン学長と40分ほど懇談。ユーラポーン学長も、「これまでの伝統的な研究・教育に加えて、次の時代を切り拓くアイデアを生み出し、それを現実に実行可能な具体案に転換できるスキルを学生に与えられるか否かが、これからの大学の将来を決する」と力説しておられました。この発言に、私はこれまでの教育を一から考え直すUn-learningが必要な時代になったと感じましたが、これに対して伝統を重んじるタイの大学、しかもそのトップに君臨する大学が、「Un-learningの後にはRe-learningが必要」と応じられたのには感服しました。

しかし、それ以上に驚いたのは、チュラロンコン大学構内で行われていたタイ国産の電気自動車の社会実装実験でした。もはやタイは、海外の自動車メーカーのアジア地域における生産・販売拠点であるだけでなく、自らも世界市場の生産者(プレーヤー)として登場しつつあるようです。このように、タイは学術・研究・教育の分野のみならず、ビジネスの世界においてもグローバルな視野から攻めに転じており、果たしてこれからも日本の大学で学ぶことを望む高校生や大学生が出てくるだろうか、という素朴な疑問が心の中に生じました。

そんなことを考えている時に、本学の提携校の一つであるシーナカリンウィロート大学の学生が、「タイ人は本当に日本が好きです。日本の入国制限が緩和され、タイ人は喜んで日本に行っています。年内、日本行きフライトは予約がいっぱいで、全くチケットが取れません。私も明治大学に早く行きたい」と。少し安心して「日本のどこがいいの」と聞くと、「日本食が美味しいし、タイでは見られない美しい観光名所がいっぱいあるから」と。この言葉を聞いて、在タイ国日本大

使館で伺った梨田大使の言葉を思い出しました。

「日本の大学、企業、国民一般も、タイ国は日本から何を学びたいのだろうかと考えているようだが、状況は大きく変化している。実は、日本がタイに学ばなければならないことも増えてきているのだという正しい認識を持つことが大切だ」と。

さて、日本の大学は世界の若者が学びたいと思う魅力ある教育機関なのだろうか？最新の人口推計をベースにすると、2040年の18歳人口は33万人減の79万人に（2022年比で約30%減）になるともいわれている。そんな時代になっても日本の大学が世界から若者が集まる魅力的な大学であり続けるためには何が必要なのかを考えなければならない時に来ているようです。

### 【理事会報告】

理事会では、原則として毎月1回、メールによる審議を行っています。

#### 1. 2023年3月度定例理事会

**議案1** 設立10周年記念事業(JTA22)担当より

学会設立10周年記念大会・祝賀会の開催期日及び会場については、2024年2月24日（土）から25日（日）の2日間の開催で、【大会】24日（土）会場：明治大学リバティタワー中ホール、【祝賀会】25日（日）会場：帝国ホテル中宴会場となることが承認されました。

### 【編集委員会報告】

学会誌第11巻第2号の投稿期間は7月1日から7月31日となっています。多くの会員の投稿をお待ちしています。

### 【年会費納入のお願い】

2023年度の年会費を6月末までに納入いただけますようお願いいたします。

### 【会費】

正会員 5,000円、  
学生会員 1,000円、  
大学会員10,000円、  
賛助会員30,000円

### 【振込先】

ゆうちょ銀行

口座記号番号：01700-0-126765

加入者名：グローバル人材育成教育学会

ゆうちょ銀行以外の金融機関から振込の場合

銀行名：ゆうちょ銀行(金融機関コード9900)

店名：一七九(イチナナキュウ)店

預金種目：当座預金 口座番号：0126765

### 【会員数・会費納入数報告】

2023年4月15日現在

◆正会員 26名 (13万円)

進捗：26/212 = 12.2%

◆学生会員 0名 (0円)

進捗：0/7 = 0%

◆大学会員 0大学 (0万円)

進捗：0/1 = 0%

◆賛助会員 3社 (9万円)

進捗：3/17 = 17.6%

合計 22万円

進捗：29件/237件 (12.2%)

【文責】アーナンダ クマーラ

【編集】番田清美